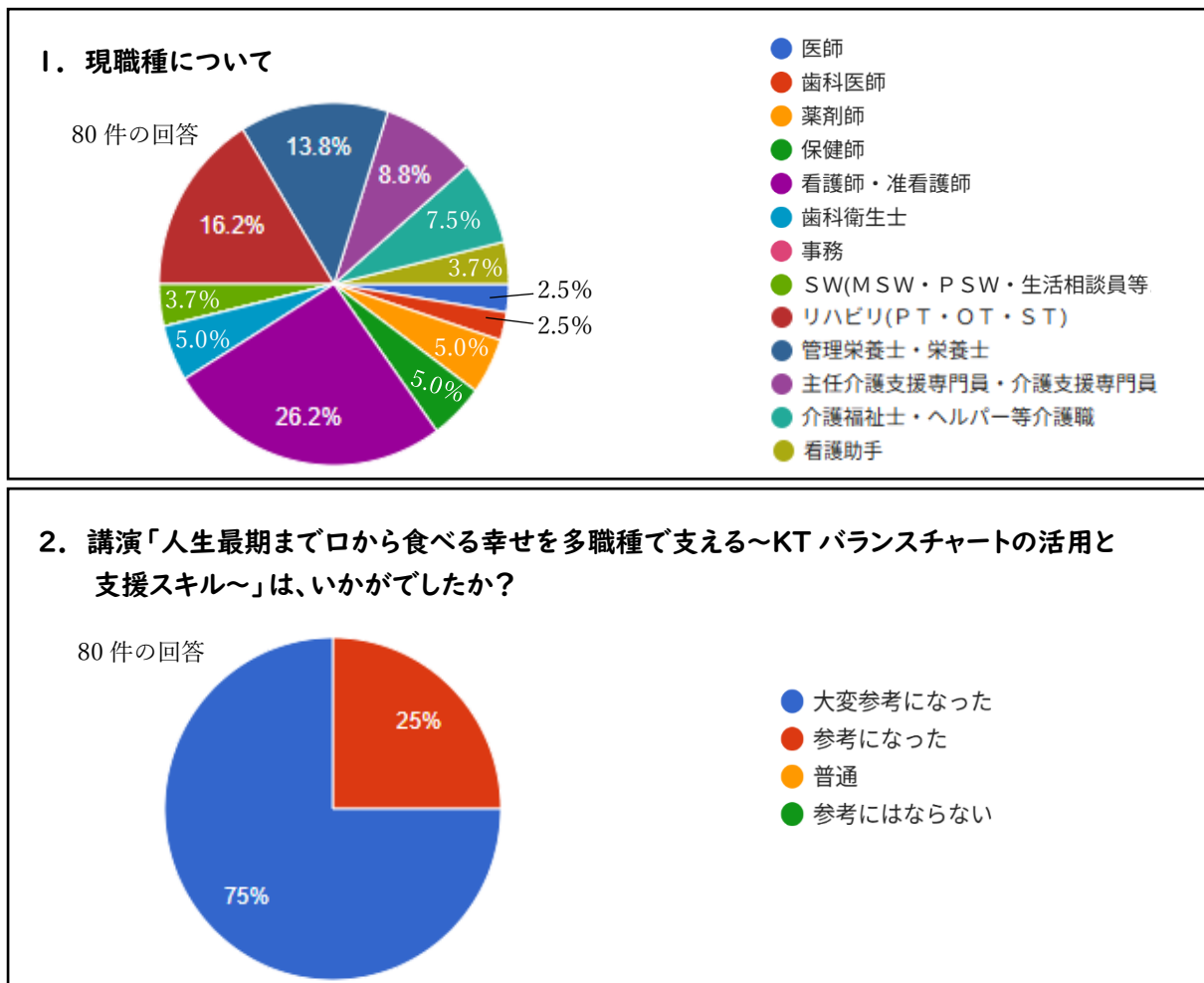


令和 8 年度 第 1 回 多職種連携研修会アンケート結果

令和 8 年 7 月 16 日(木)

19:00~21:00



<講演に対するご意見・ご感想>

学び・気づき

- ・"思いだけでは、思っていないことと同じという言葉がひびきました。
- ・今まで飲み込みばかり見ていた。姿勢も気にしていたが正しい知識がなかったので、今回の研修で参考になった。
- ・あきらめず、1 つずつできることを始めていきたいと思います。
- ・少しの工夫で口から食べることができるスキルとても参考になりました。
- ・食べる幸せを最期まで感じることができるよう、学びを深めていきたいと思います。
- ・可視化されることで、理解や共有がしやすいと感じた。
- ・今はまだ学生ですが、参考になり 今後現場に出る時のための役に立てたいと思った。とてもすてきな研修会でした。
- ・今後、看取りの在宅を受け持ちそうです。今までにないケースに参加出来たと思いました。具体例が多くわかり易かったです。
- ・初めて食事についての研修に参加した。今までは怖さやあきらめが強かったが今日の研修でかなり食べることの大切さを知った。
- ・KT バランスチャートの活用方法や、評価の視点などの考え方を知ることができた。
- ・KT バランスチャートを使えば、みんなが同じ視点を持って評価できるので良いと思いました。
- ・初めて KT バランスチャートについて学ぶことが出来て、大変勉強になりました。今後に生かしていきたいです。

- ・食べる楽しみのある生活の継続に向けて、活用していきたいです。
- ・カラーで見出しもはっきりしていて、大変参考になります。
- ・先生の熱意が伝わる内容であった。事例のお話が出てくることでより分かりやすくなった。聴講者がやってみようという意欲が沸いたと思う。
- ・「食べる」希望を支援できる医療者になります。
- ・自分の疑問をはれやかにしていただきました。
- ・すばらしい評価ツールだと思います。
- ・食べさせたい気持ちだけではダメ。スタートしないと。本当にまず始めてみないと食べることができるようにならないと思った。とても参考になりました。
- ・口から食べるため、あえて点数下げることもある→どうしても改善させたい。
点数上げたいと思いがちですが、「口から食べる」ことを見失わないことが大事だと思いました。
- ・むせがある方にトロミ付をすすめていたが、他にも選択肢があったなあと反省した。病気でも寝たきりでも、食べることにする思いは私たちと一緒にだなあと改めて思った。美味しいもの美味しそうなものを食べたい気持ちは一緒ですね。食の楽しみを奪われると生きる意欲がそがれる。それなら死んだ方がマシだと話す利用者が多く、不安を抱えている方にこのような取り組みがあると今日の学びを伝えていきたい。4 カ月で食べて歩けるようになった最後の事例に感動しました
- ・食べる→元気になる 感動しました。

現場での活用意欲・多職種連携への意欲・家族支援

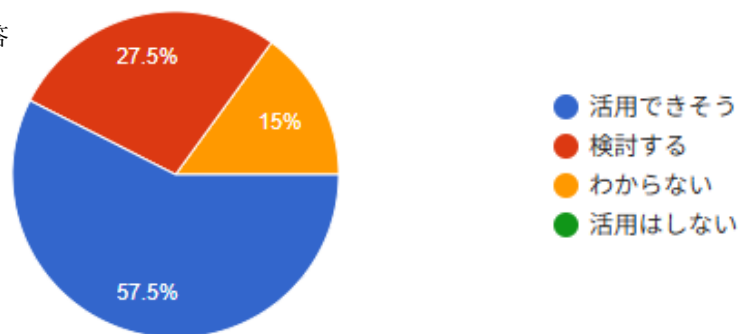
- ・管理栄養士として病院に勤務し、ミールラウンドで気になることをスタッフにその場で提案してきたことが形になっているので活用したいです。
- ・食べることを大切にしている職場です。もっと食事を楽しんで元気にすごしていただけるように KTBC など活用し、食事のことも学んでいきたいと思いました。実践セミナーにも参加したいです。
- ・KT バランスチャートを積極的に活用したいと思います。
- ・KT バランスチャートの活用としてアプリでできることを知り、実際に病院でも使用してみたいと思った。月1回目ミールラウンドを行っているが、メンバーのみの話し合いで それを病棟へ伝える方法に困っていたため、KT バランスチャートを使うとうまく周知できそうだと感じた。
- ・KT バランスチャートアプリを早速活用してみます!つながりのあるケアマネ、SW、他職種に普及させていきます。
- ・わかりやすいテキストも購入でき、先生の話もわかりやすかった。好事例の紹介は感動しました。家族も何とかしたいという思いはあっても、どこに相談したらいいのかわからない、支援者に相談してもわからないと言われることもあると思うので、そういうことが少しでも解決できればいいと思います。
- ・施設職員です。まさに今日ご入居された方が数日前に病院で食事が中止になっていた方でした。ご家族は食べさせたい気持ちが強く、それに応えることが出来なかったことがとても残念に思っていました。この研修内容を他の職員に伝え、方針を考え直したいと思いました。
- ・とても勉強になりました。かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局などとも連携を図っていく必要を強く感じました。
- ・本を購入させて頂いたのでしっかり読んで現場で生かしたいと思います!

現場での課題・難しさ

- ・経口摂取の支援について学べた。病院では、ハードルが高いがあきらめずに在宅へつなげていきたい。
- ・「食べること」=元気に生きていくこと、生きがい、その人らしさ、当たり前のことが病院ではあきらめている。「禁食」指示する Dr.がほとんど。あらためて医療者として認識をかえる機会となりました。

3. 今後、KT バランスチャートを活用していけそうですか？

80 件の回答



<活用できそうな理由、活用できそうにない理由など>

KT バランスチャートのメリット・使いやすさ

- ・web などでもわかりやすく見える化する事で、家族や介護者に説明しやすいと思いました。
- ・見える化、課題改善方法がわかりやすい
- ・課題点や変化が分かりやすく、次につながりやすいと感じた。
- ・アプリで入力することができ、評価基準が分かりやすいから。
- ・携帯電話で簡単に入力できる。アセスメント、対応方法まで教えてもらえるため難しさはない。
- ・1 つの事で判断するのではなく全体的に把握する必要性。
- ・チャートを活用することでわかりやすくなる。
- ・スマホでできる。
- ・難しくなく誰でも使えそう。
- ・チェックするだけなので簡単。
- ・評価マニュアル、その後の対応があるととても活用しやすい。皆で統一した評価も大事
- ・アプリでどこでも手軽にできるのはありがたいです。どの視点から見て評価したら良いか、アプリの結果から課題が見え、どうしたら良いかが明確になるので多職種で連携し対象者を支援していくのに活用します
- ・多面的にとらえるチャートなので活用しやすいそう
- ・無料アプリを使ってみようと思う

活用したい場面・具体的イメージ

- ・栄養管理委員会や嚥下チームに落とし込んでいきたい。
- ・ミールラウンドに取り入れていきたいと考えました。
- ・ミールラウンドで web サイトを活用できそうだった。
- ・在宅で誤嚥リスクが高い方がいるため、評価・活用していきたい。
- ・訪問看護で、協力的なご家族には活用できそう。
- ・誤嚥を起こす前の段階での支援につなげていきたい。
- ・全員に活用するのは無理かもしれないが、必要性が高いという方から活用して、誤嚥リスク予防に努めていきたい。
- ・業務の中で「食べたい」と望まれる方へ KT バランスチャートを用いて、チーム内で考えていきたい。
- ・一人の方に関わる時間は限られてますが、できるだけアセスメントをしっかりと行い、まず一人だけでも行っていききたい。
- ・在宅で同レベルの利用者は少ない。今後、相談や依頼があった時には活用してみたい。
- ・在宅でぜひ。

＊導入に向けた検討＊

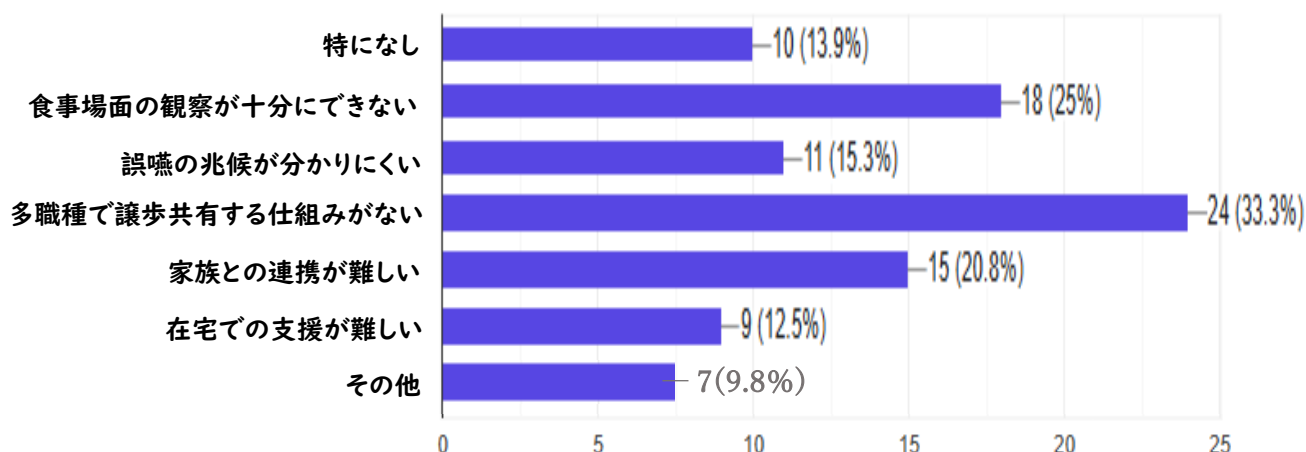
- ・活用できそうなタイミングはあるが、マンパワー的にできるかがわからない。提案して使えるよう検討していきたい。
- ・活用方法を検討して、評価場面に導入したい。まずは1事例から始めたいと思います。
- ・最初から食べられないと決めつけず、チャートを活用してアセスメントしていきたい。
- ・今はまだ活用できるかはわからないと思いました。
- ・ST に相談したい。

＊難しさ・組織的なハードル・忙しさ＊

- ・自分に評価が難しい項目があるため
- ・現場での導入は難しいので、自分の中での評価基準として参考にします。
- ・施設の中では、忙しくてできないといつも何かを提案しても言われてしまうため、職員に対してのアプローチから頑張らないといけないと思います。
- ・私自身は活用していきたいが組織の壁が…。
- ・チームとして活用していけないが、周囲の理解をしていただくよう伝えていきたいです。

4. 現在、食支援に関する困りごとはありませんか。

72 件の回答



＊その他(内容)

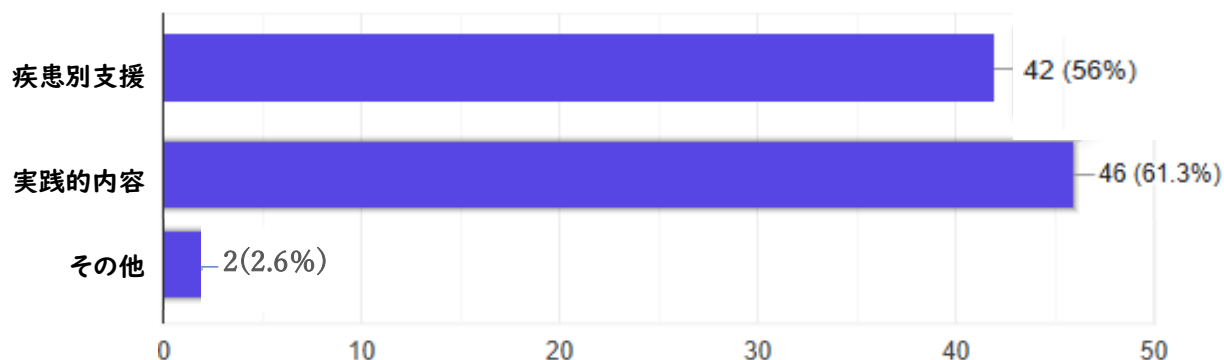
- ・食事姿勢や食事介助に関して、詳しい人がいないこと。その人に合うテーブルやイスがすぐに用意できないこと。
- ・職種間での「食べる」に対する熱量の差が大きく連携しにくい。
- ・カロリーUP が難しい。
- ・現在は、在宅未実施ですが 元々食事量が少ない人への支援。お金をかけずに出来ることなど。
- ・他職種の理解と自分の知識不足。

＊在宅での支援が難しい理由＊

- ・家族の介護力不足で、食事形態の対応が難しい。食べ方や、代償的嚥下法を指導しても実践困難。
- ・家族の方が料理をするのが難しい。介護食を男性が作るのには難しかったです。
- ・主治医の許可なく進めることのできない現状。
- ・主治医より許可がないのに進めることが難しい。何かあった時に責任がとれないと思ってしまう。
- ・食事の時間に家族の面会をしていない。
- ・薬剤師なので直接患者さんに食事介助を行う場面はないが、PTP の誤嚥の事例を聞いて、認知症の患者には一包化を提案するなど心がけたい。

5. 今後も「食」を通した多職種連携をすすめていく予定ですが、どのような内容を希望しますか。

75 件の回答



***その他(内容)**

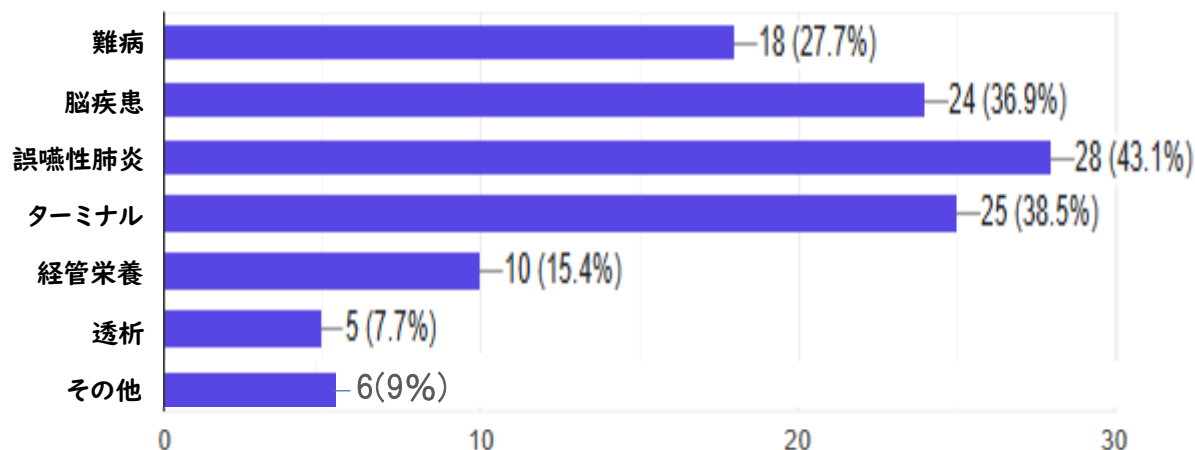
- ・食事の形態と実際の食事のマッチングと家族支援(施設職員への情報提供)
- ・薬剤師として求められている支援、取り組みそうな事について

実践的内容の具体例

- ・ポジショニング ・食事介助技術 ・食べさせ方の指導を受けたい。・試食会
- ・不良姿勢に対するアプローチ ・姿勢・ポジショニングの悪い例、良い例。
- ・医療から介護、在宅への連携。グループワークなどで地域連携、顔の見える研修。

5-1. 具体的にどのような疾患・状況を希望しますか。(2 つまで選択可)

65 件の回答



***その他(9%)**

- ・ベッドでの介助が必要な患者さんの事例
- ・味覚障害の方が食をたのしめるために(くすりの副作用で味がわからないそうです)
- ・認知症
- ・難病で胃ろうの子どもなどに口から食べさせたい。どう工夫したらよいか。
- ・血液疾患